

「セッションハウス プログラム D-Zone Relay 2012」  
「TPAM(国際舞台芸術ミーティング)in Yokohama 2012 ショーケース」参加作品

絵画／ダンス／音楽 —

「現実と空想をつなぐ身体を、一つ一つ確かめ、洗い流す。黒の海を、歩くように」

永井美里/AAPA

「海を歩く」

振付・出演 永井美里  
構成・演出 上本竜平  
作曲・演奏 sylvian rue  
(西川裕一[Vo./ Key.]  
若鍋久美子[Perc.]  
松田彩[Vn.]  
廣瀬達也[Ba.]  
木幡東介[Drums]  
UK[PA])  
主催 永井美里/AAPA  
共催 セッションハウス

ダンサーの永井美里が、画家・鈴木省三の絵の「黒」という境界を見つめることから生まれたダンス作品、『海を歩く』。  
「絵と人が時空の広がりを生んだ」(武居利史/府中市美術館学芸員)と評された、鈴木省三個展「天空が近づく」  
(2011.8)での初演から半年。音楽家との対話を積み重ねる再創作を通じて、新たに「生演奏によるダンス作品」として  
再演します。

撮影：森下宏明



## ■ 永井美里/AAPA 『海を歩く』 作品ノート

絵に描かれた、自由に浮かぶ鮮やかな曲線と、その前に立つ黒。「黒」を境に、「ここ」と「向こう」がある。ダンスを創作する始まりに、鈴木省三さんの絵に触れ、この3つの世界に対峙したとき、自分が感じていた「幻想」と「現実」の距離に、あらためて向き合うことを決めました。

ダンスという幻想によって、現実は何を与えることができるのか。「黒」を境に、「ここ」と「向こう」と対峙する。先が見えないなかで、それでも希望をみつきたい。

身体はどんな状況にあっても、生命の営みを淡々と繰り返している。いつも新しい状況に向かいあい、今まで積み重ねてきた身体に、常に新しいものが加わり、時を刻んで進んでいる。その自分の身体を見つけたとき、強くなれた記憶を、思い出した。

鈴木省三個展「天空が近づく」(2011.8)での、『海を歩く』の初演を通じて、他者の作品が引き出す感覚を掴むことが、ダンスを通じて自分だけでは見えなかったものに触れる、糸口になると実感しました。今回の公演では、新たに音楽家による生演奏を加えた再創作を行い、この作品のもつ「現実の体感と空想をつなぐ、身体への気づき」を、より明確な形で引き出し、共有することを目指します。

▼ 振付・出演：永井美里 Minori Nagai [web] <http://minori.aapa.jp>

横浜生まれ。幼少よりバレエを習い、2003年に英国ミドルセックス大学ダンス学部へ入学。リリーステクニック、コンタクト・インプロビゼーションの影響を強く受ける。卒業後、杏奈、矢内原美邦、平原慎太郎などの作品に出演。2007年よりAAPAに参加。2011年に「上本竜平/AAPA」としてJCDN「踊りに行くぜ!! II」に公募選出され創作した『終わりの予兆』に、振付・出演として参加し「徹底的に踊れる永井は自らに対して時間や記憶を逆行しにする如きスローな動きを課し、踊る根底を探っている」(宮田徹也/音楽舞踊新聞 2843号掲載)と、その身体性と振付家としての新たな挑戦を評価された。

▼ AAPA (アアパ/ Away at Performing Arts)

[web] <http://aapa.jp>

2004年に、上本竜平を中心に横浜を拠点として活動開始。劇場外を主なフィールドとして、演劇・ダンス・DJ・音楽・美術・建築・NPOなど様々な分野と関わり、舞台を通じて現実の「距離(異質さ/つながり)」を形にするプロジェクトを国内各地で行う。2011年には「上本竜平/AAPA」としてJCDN「踊りに行くぜ!! II」に参加し、劇場作品として『終わりの予兆』を創作。鳥取・伊丹・福岡・東京を巡演した。

## ■ 公演詳細

【開演日時】2012年2月18日(土) 15時 / 19時

(開場は開演30分前)

【料金】一般 3000円 / 学生・TPAM2012パス提示 2000円

【チケット予約・問い合わせ先】AAPA(アアパ)

E-mail: [info@aapa.jp](mailto:info@aapa.jp) Tel: 090-5443-1892

▲ チケットご予約の際は、上記のメールアドレス宛に、お名前・希望開日時・券種・枚数をご連絡ください。



撮影：坂田洋一



撮影：飯村昭彦



撮影：坂田洋一



撮影：坂田洋一

▼ 作曲・演奏：sylian rue (シリアン・ルー)

[web] <http://www.sylianrue.com>

作曲家・演奏家の西川裕一を中心に、楽曲の瞑想的、サイケデリックな有様を通じて、精神の奥深くへと分け入るプロジェクト。当事者意識の欠如した現代において、自分自身と他者、社会、世界、あらゆる物事や出来事との距離や関係性について問いかけることを目的とし、思考し続けることの大切さ、危機感を主題に据え、音の向こう側の想像力を提示する創作に取り組んでいる。

【会場】セッションハウス (Tel: 03-3266-0461)

